

国際共修プロジェクト 学生サポーターガイドライン

国際共修サポートチーム

(資料作成：湊 洵菜)

A. 国際共修サポーターが積極的にすべきこと

A-1. 科目担当教員とのルールづくりと業務内容の確認

- …求められているサポートをしっかりと理解するために、まずは担当教員と十分な意思疎通をはかりましょう！
- …学生の発言の促し方を確認しておくことも重要です。なるべく全員が発言するよう積極的に働きかけるのか、学生の自主性を尊重して自然に任せるのか、指針を共有するようにしましょう。

A-2. 授業初期段階におけるグループワークへの適切な介入

- …各学生の「語学力」が「発言力」となってしまうよう、参加する全ての学生の意味ある交流をサポートすることが肝心です！

A-3. 担当教員が見えない部分のモニタリングや迅速な報告・対応

- …授業時間外に学生がおこなうグループワークの進行状況や、各グループのディスカッションの雰囲気など、教員でなくサポーターだからこそ見えるものがあるかも！何か伝えるべきことがあれば、担当教員にすぐに連絡しましょう。
- …トラブルや悩みが次回授業時まで放置されないよう、活動毎にグループリーダーから簡単な報告をしてもらうなどの工夫も必要です。

A-4. 学生とのラポール形成

- …教員と学生をつなぐサポーターとして、学生との信頼関係の形成も大切ですね。

A-5. ワークのファシリテーション（リアクション、簡単な質問など）

- …国際共修サポーターの腕の見せ所！グループでの意見交換や交流活動を盛り上げるため、適切な介入を心がけましょう。

A-6. 学生の個別事情への十分な配慮

- …個々の学生が授業を受けている場所の学習環境やインターネット環境はさまざま。また、授業時間外のグループワークに集まる自由度も学生により異なります。できるだけ学生個々の事情を把握し、教員にも伝えるようにしましょう。

A-7. グループワークのための（対面の）座席づくり・（対面およびオンラインでの）情報機器操作サポート

- …対話や議論がしやすい空間作りも、国際共修では大事なポイントです。また、オンラインを取り入れた新しい国際共修では様々な情報機器やICTツールを使います。操作に不慣れな学生や教員がいたら、できるだけサポートできるようにしましょう。

B. 国際共修サポーターがしなくても良いこと

B-1. 求められていない通訳や資料翻訳（必要かどうかは担当教員と相談）

…過ぎたるは猶及ばざるが如し！学生同士の会話場面の葛藤が学びの深化につながることも多い国際共修では、通訳や翻訳は求められた時だけ、控えめにした方がよさそうです。

B-2. テストやレポートの採点

…国際共修サポーターはTAではありません。私たちは国際共修をうまく進めるためのサポートに徹しましょう！

B-3. 個々の学生の学習相談

…学習上の何らかの相談を受けたら、まずは担当教員に報告しましょう。

C. 国際共修サポーターがしてはいけないこと

C-1. 学生サポーター個人の経験や価値観からの「すべき」を押し付ける指導

C-2. 必要以上の（担当教員からの指示を超える）介入・学習指導

…国際共修の学びのプロセスも、そこから得る成果も実にひとそれぞれです。十人十色の学びを育てられるようなサポートが理想です。

C-3. 授業に参加する学生全員の個人情報への漏洩

C-4. 学生へのハラスメント

…学生が不快に感じるようなことは絶対にしてはいけません。意図せずそうした言動をしていないか、自分自身を省みることも大切です。